

# 秋と紅葉と博物館



「県民の森の秋の紅葉を楽しむ」野外学習会  
(平成19年11月11日、くもり、56名参加)

紅葉がはじまった県民の森で行ないました。ゆっくりじっくり観察班、しっかり観察班、尾根観察班の3グループに分れての観察になりました。

遅れて出発した館長(加藤)は、尾根班にはぐれ、滝尾根を大汗をかいて宇連山1km手前まで登り、さらに北尾根を一人さまよっていました。

おかげで、鳳来寺山、棚山、三河高原の山なみと宇連山のみごとな紅葉を満喫できました。ただし、翌日は筋肉痛... その翌日...

第2回「川原の学校-石ころ教室-」  
(平成19年11月18日、くもり~雨)

第1回は豊川上流、柘里のサイクリングターミナル前の川原でした。今回は中~下流での教室です。

豊川市三上の川原へ出掛けました。石ころはすいぶん小さくなり、大きさもそろってきて、川の流れもゆるやかです。

ここで石の計測や種類分けをしていると、にわかには雨がふりだし計画変更。

石巻山と河口の「カワッコ資料館」に移動して、河口付近の地形と川のはたらきを学びました。



丸山(潤)さんのゴケ玉、深見さんの宝石さがし、館長のストーンポイント、どれも昨年を上回る参加者でした。来年は特に宝石さがしの増設を検討しなければならぬようにです。



きのこ観察会



秋と言えばきのこに関心が集まります。

今年は武豊町中央公民館、

東浦町生涯学習、新城市生涯学習、新城市西部グリーンツーリズムから申し込みがあり、観察会をおこないました。

宝石さがし・ゴケ玉づくり、石絵

丸山(潤)さんのゴケ玉、深見さんの宝石さがし、館長のストーンポイント、どれも



昨年を上回る参加者でした。来年は特に宝石さがしの増設を検討しなければならぬようにです。

来館者73引きサービス



協力隊の深見さん夫妻の援助で行なった73引きはみんなに喜ばれました。

1等の岩石ハンマーと自然薯を当てた人は本当に幸運です。時価ウン千円の品物でした。

学校と博物館

鳳来寺山自然科学博物館の設置の目的は「教育の振興を図る」となっています。自然に親しみ、体験し、学ぶことの大切さが改めてさげはれる時代となっています。この11月は、舟着、山吉田、12月は鳳来西小学校が理科の地層学習で利用。又、豊橋の大村小、東浦の片葩小、浜松の引佐小学校が見学してくれました。出張・出前講座としては、菅守、鳳来寺、黄柳野の各小学校と千郷中学校へ講師で「出掛」けました。今後さらに連携を深め、魅力ある学校が利用しやすい博物館づくりに努めます。

イベント  
鳳来寺山とみじまつり「博物館44周年感謝祭」  
(平成19年11月23日~25日)

サンドイッチマン

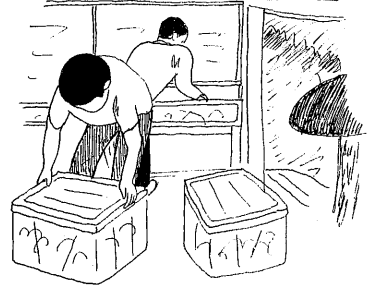
博物館協力隊員でもある友の会会長の小林さん、小学生隊員の戸澤くん、加藤くんは集客のためにサンドイッチマンをしてくださいました。例年より人出が少なく、おおせ(い)の人を館に導いてくれました。感謝感激。



はつかなだめ 16.121  
2007.11

職場体験  
(平成19年11月6~9日)

鳳来寺山  
自然科学  
博物館



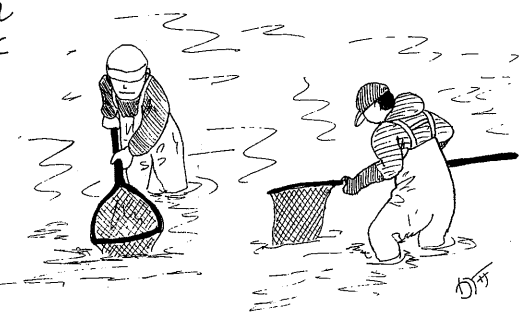
新城中学2年生の竹内くんが職場体験で来てくれました。この時期の受け入れは、館と初めてです。きのこ展の片付けや環境整備などをしてもらいました。イメージしていた仕事とは異なった内容だったかもしれませんが、これも大切な仕事です。

新城総合公園 たにし池  
(平成19年11月19日)

この人工の池には外来魚のブルーギルが持ち込まれ、大繁殖し、その一部が豊川に流れ込んで問題になっています。ブルーギルは北米原産の淡水魚。群れで行動し、雑食性で仔稚魚や卵、水生昆虫、植物も食べてしまいます。強烈な魚食性と繁殖力のため、在来の淡水魚と稀少生物が食べられてしまい、豊川の生態系をこわしてしまう恐れがあります。

そのため、この日、池干しをしてブルーギルの駆除となりました。

池にはたくさんのブルーギルの他にコイ、フナ、タイリクバラタナゴ、ウシガエルの幼生(オタマシヤクシ)、ドブガイの死貝も見つかりました。アメリカザリガニもいました。



# 年の瀬と博物館



**「野鳥を観察して巣箱をつくらう」**  
(平成19年12月2日、はれ、33名参加)

3年ぶりの地元開催です。季節が遅れたせいで、紅葉は最高でした。しかし、鳥は少なく、モズやジョウビタキなど13種のみでした。午後は巣箱づくり。各自持ち帰るの他に、コハズク用と作りました。これは鳳来寺山周辺に掛け、コハズクに使ってもらうためです。作った人には巣箱を掛けていただく予定です。



**門松つくり**  
(平成19年12月27日)

改修工事後、初の門松立てです。自己(オレ)流オリジナルで、材料はすべて現地調達です。橋の入口の門のところに立てました。七夕風に葉竹を立てて、松、梅、南天、クマササで飾ります。いっそ、短冊をつるし、干客万来を願いたいところです。

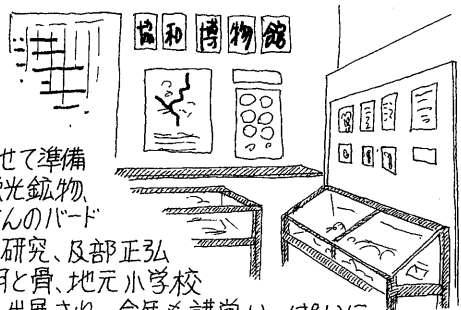
**博物館大そうじ大会**  
(平成19年12月22日)



年末の大そうじを博物館協力隊(ボランティアグループ)のみなさんとおこないました。図書や標本の移動、片づけ、ガラスふきなど、ふたんなかなか手がつけられない作業を、おせいで取り組みました。重たい本の移動でへとへとになりましたが、特製野生きのこ入りシ鍋で元気を回復し、夕方までいっぱい働きました。井野、原、深見夫婦、山本(※)、小笠原、吉田、丸山(潤)、及部岡本の各隊員に感謝、感謝です。

**「みんなの博物館」展開催**  
(平成19年11月23日～20年2月3日)

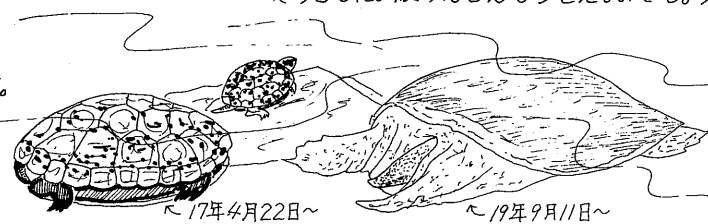
今年は鳳来寺山とみじ祭りにあわせて準備をしました。加藤陽司さんの粟三河の蛍光鉱物、嵐川順一さんの岐阜の化石、長谷川博さんのバードカービングと恐竜、潤昌弥、一樹君の自由研究、及部正弘さんの写真、小木曾千工さんの鳥の羽と骨、地元小学校(鳳来西、菅守、協和、鳳来寺)からも出展され、今年も講堂(いっばい)に展示できました。



## 同床異夢?

**年越しのごちそうは?** (平成19年12月31日) (平成19年12月13日)

今年の初氷は12月6日でした。カエデ類はほとんど落葉し、山々がさびしくなってきた頃、大型水槽の大カメ太と小カメ太の動きがにぶくなりました。新参者のスッポン(No.120参照)も越冬(冬眠)の体勢にはいりました。この日、水槽にコモをかけてやりました。彼らはどんな夢を見るのでしょうか。

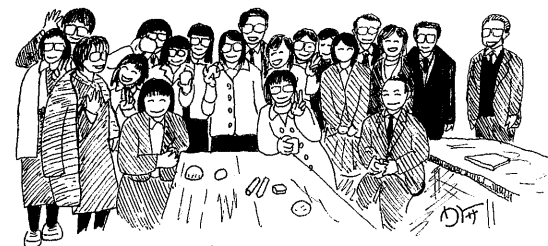


～17年4月22日～

～19年9月11日～

**はがつかたよ** No.122  
2007.12

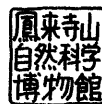
かんけい  
 **환영 慶北大学校師範大学  
附設中学校一行**  
(平成19年12月18日、16名+3名)



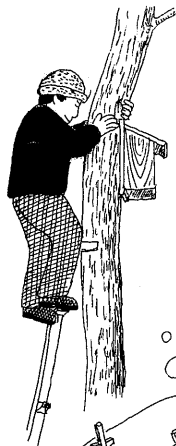
新城市中学生の海外派遣の交流校である韓国の中生が来日し、博物館に來てくれました。生徒16名、教師3名です。飼養中のオオコハズクやコミズクを見たり、館内の展示を見学してもらいました。火山岩や堆積岩、大型哺乳類から昆虫、様々な植物など、変化に富んだ鳳来寺山の自然に興味津津のようでした。最後にストーンペイントで楽しくおみやげを作りました。新城の良い思い出ができたでしょうか。

**第3回「川原の学校-石ころ教室-」**  
(平成19年12月9日、はれ)

第3回は「河岸段丘の観察と測定」です。はじめに桜洲の川原で石ころ標本を集めました。次に測量です。ハンドレベルとミニロッドを使って段丘の高さを測ります。2人/組でおこないましたが、どの組も正確な測定値で上出来でした。次の地点は川路地内です。ここでは、礫層の厚さと段丘の高さを計測しました。ここで正確な測量ができて先生からほめてもらいました。調べてきた段丘が昔の川原だったことが理解でき、感激しました。



# 年のはじめと博物館



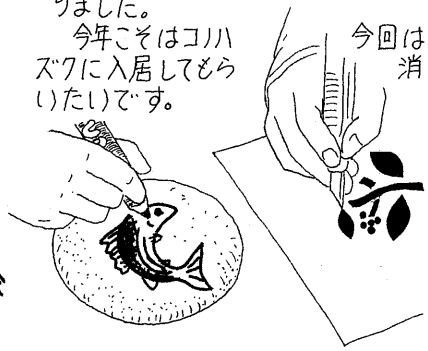
## コロナスズ用巣箱調査 (平成20年2月24日)

風が強く、とても寒い日になってしまいました。協力隊員と門谷21世紀委員会のメンバーでいっしょになって調査。

古くなり腐って落ちてしまったものも多いため、学習会(12月2日)に作った新しい巣箱も持参しました。

結果はコロナスズの痕跡はなく、ミシユウカラヤヤマガラなどが利用していました。行者越方面の調査グループはモモンガが使用中の巣箱もありました。

今年こそはコロナスズに入居してもらいたいです。



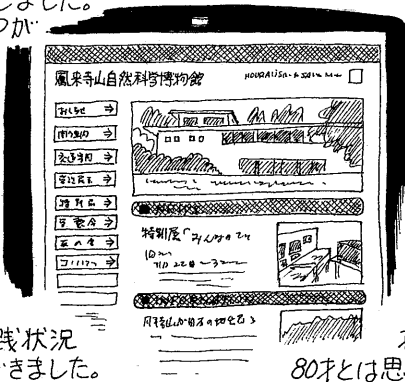
## 愛知県博物館協会研修会 (平成20年2月7日、14日)

愛博協では、毎年この時期に部門研修を行なっています。今年は「手作りホームページの改善(美術部門)に岡田が、学校教育(教科)と連携した学習教材及び展示の開発と実践(自然部門)に鈴木と加藤が出席しました。

HPの改善研修では当館のHPが教材にされました。レイアウト、色、デザインをそろえると手づくり感が消えて洗練された感じのものになるとのことでした。

学校連携は各館の関心が高く、おおせい(49名)の参加がありました。

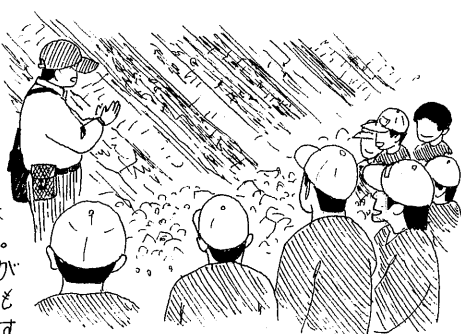
当館がホスト役となり、4館の事例発表に加え、参加館からも8件の発表がありました。各館の実践状況がよくわかり、熱心な情報交換ができました。



## 理科の現地学習 (平成20年2月29日)

地元の鳳来寺小学校の6年生が理科の学習で来館してくれました(13名)。

校区には、当博物館があり、地層を学べる露頭もあって、とてもめぐまれています。鳳山のカケには地層が露出していて、ドアを出れば目の前で観察できます。



## 友の会行事「自然をアートしよう」 (平成20年1月27日)

今回はモバイル作りとストーンアート、消しゴムスタンプ作りをおこないました。

講師は友の会の丸山(潤)さんと加藤です。

モバイルにする切り紙は皆さん初めてとは思えないのできはえでした。

ストーンアートは2年目でもあり、思いおとりの作品ができました。11つか作品展をしましょう。

## セツファンソウの花園 (平成20年2月2日)

昨年9月にイノシシに荒された中庭(No.120参照)で、今年もセツファンソウが咲きはじめました。しかし、被害は甚大で、掘り返された場所は数株が咲いただけでした。花園の実現が少し遠のきました。



## はつたがたのり No.123 2008.2

## 原田猪津夫先生逝去 (平成20年1月17日)

当館の設立準備段階からお世話になり、学術委員、顧問を歴任された原田猪津夫先生がてくなりました。

この地方の水乳類、両生、は虫類をはじめ鳥類の調査で大きな足跡を残されました。

昆虫をはじめ、膨大な標本類は設楽町の奥三河郷土館に収蔵されています。奥三河の自然をこよなく愛し、誰よりもよく知っていた先生でした。

大事な先生を失ってしまいました。



## 川原の学校「石ころ教室」 (平成20年1月13日)

これまで見てきた川原の石のふるさを巡る、最後の授業でした。桜沢で緑泥片岩や石灰岩を観察した後、黄柳野に移動。蛇紋岩の露頭にしばらくへばりついて、さらに湯谷に移動して安山岩でできた「馬背岩」によじ登り、川原で石ころ標本の採集。おなかをすかせながら博物館にたどりつきました。昼食をすませて、今度は大栗平の花垣鉱

山跡で堆積岩の地層の下で化石をさがし、田代の花崗岩でしめくくりました。再び館にもどり、これまでのまとめをして、仲井校長先生から修了証書が手渡されました。みんな石ころ博士になれたかなあ。

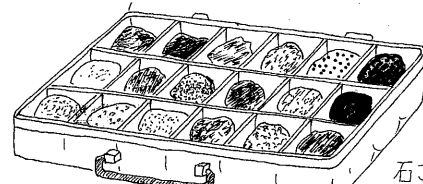
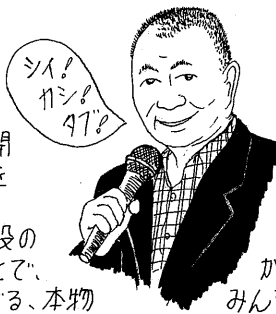


## 宮脇昭先生の講演 (平成20年1月12日)

ヨコハマゴム新城工場で開催された「千年の杜」講演会を聴講することができました。その土地本来の主役、三役、五役の樹を調べ、それらを混植することで、きびしい条件で耐えて生きのびる、本物の樹による本物の森をつくらうと熱く語っていました。

国内だけでなくマレーシアや中国など1600ヶ所以上で緑化、植樹運動を指導、実践されています。

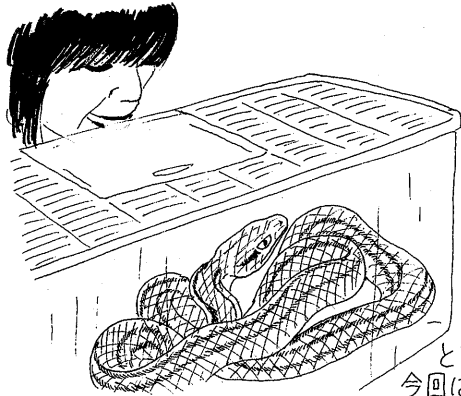
80才とは思えない、とても精力的な先生でした。



100-ツケースを利用した石ころ標本箱



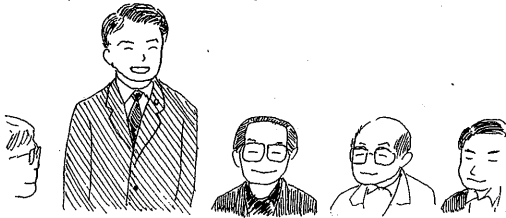
# へびのおでむかえ



## ロビーのへびハウス (平成20年4月19日～)

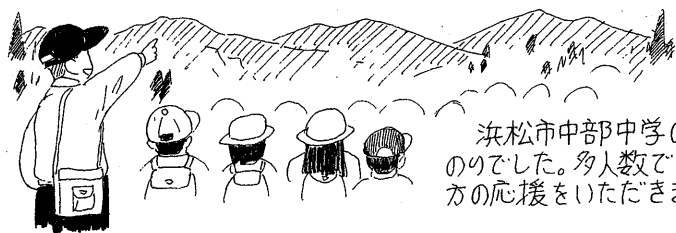
今年とやってきました。  
へびの季節が！  
この日、友の会の小林会長  
が、アオダイショウ(160cm)、シ  
マへび(約120cm)、ガラスへび  
(シマへびの黒化形)をつれてきてくれました。  
昨年まではペットボトルの家だったので、  
とても窮屈そうでした。そこで、  
今回は水槽の家に変更。

ゆったりと、とぐろをまいてお客様をお迎えしています。  
「ヒャー」という声の後、至近距離で横、上、下から、  
みなさんのぞいています。今後、さらに追加され  
地元産8種がそろう予定です。



## 学術委員総会・友の会総会 (平成20年4月27日)

学術委員の新メンバーに川村浩先生  
が加わりました。東山動物園の前園長さんです。  
学術委員総会には、穂積市長も出席してくれました。  
翌日の市ホームページの市長ブログには、さっそくコメント  
が書かれていました。博物館に対する理解の深さが  
伝わる内容でした。他のブログもあわせて、ご一読ください。  
<http://www.city.shinshiro.aichi.jp/> (新城市HP)  
「市長の部屋」→市長ブログ「山の舟歌」4月28日「山の博物館」



浜松市中部中学の一行が、今年度ガイドツアーの一環  
のりでした。多人数でしたので、学術委員総務部門の先生  
方の応援をいただきました。

## 今年もガイドツアー 好評です！ (平成20年4月23日、142名)

## 博物館協力隊の働き (平成20年3月～4月)

長年手つかずだった図書館にやっと  
手がさしのべられるようになりました。  
井野仁隊員が、図書との格闘を開始  
してくれました。長い闘いになりそうです。  
又、5月3日から始まる特別展「大断層・  
愛知の中央構造線」展の準備で苦闘する  
日マでしたが、これも鈴木い、深見夫妻、牧平隊員  
の出勤で、開催日に間にあうことができました。



## 今年もガイドツアー 好評です！ (平成20年4月23日、142名)

## 裏庭のムササビハウス (平成20年4月26日)

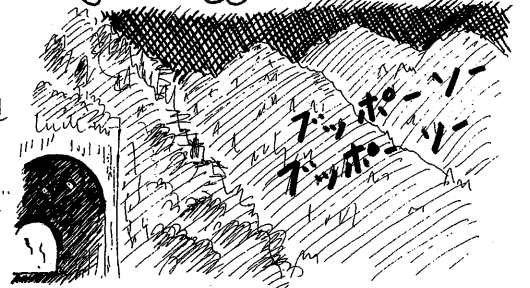
館の裏庭のイロハカエデに大型の  
巣箱が掛けてあります。友の会の深見  
さんが数年前に設置したものです。  
特別展の準備作業に来てくれた  
この日、巣箱をのぞくと、2匹のムササビ  
かとび出てきました。  
鶴吉か、その子どもかな～  
鶴吉が旅立ってから10年になります。  
(No.50参照してね)



## 新城市内学校訪問 (平成20年4月14～22日)

市内には小学校が20校、中学が6校  
あります。年度の始まりにあたり、全学校を  
訪問することにしました。  
資料をたづね、博物館の利用促進と  
友の会について、校長先生に直接お願い  
をしてまわりました。  
499km<sup>2</sup>の新城市は県下で2番目の  
広さです。博物館に出掛けるのと、  
博物館から出向くのも大変なところが  
ありますが、観察会や出前講座など、要請が  
あれば、どんどん出ていきたいと思っています。

## はがっかだより No.124 2008.4

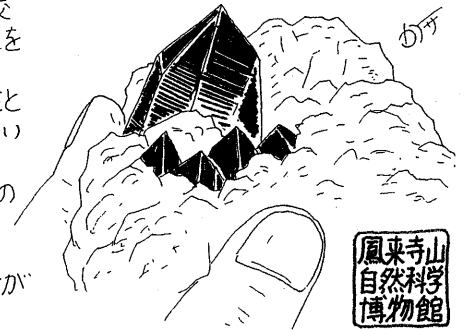


## コリハズク初鳴(2羽) (平成20年4月30日)

仏坂峠付近での初鳴きの情報です。  
門谷の岡田孝一さんが確認しました。  
昨年より8日ほど遅いようです。  
今年の鳳来寺山は鳴くでしょうか。

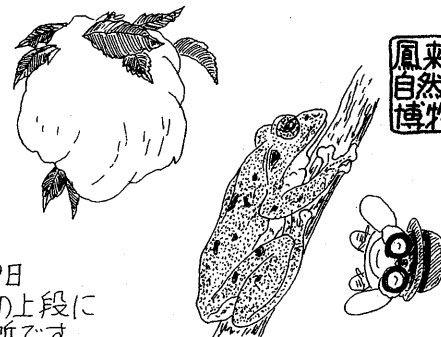
## 協力隊員のお楽しみ研修 (平成20年3月4日、7名参加)

ボランティアの出勤の多かった隊員への感謝  
をこめて行なう特別研修です。第1回は、津具で  
砂金採り。氷雨に降られ、凍りそうになりました。  
今回は岐阜で、水晶とトパーズの産地をたずね  
ることにしました。雪の残る林道に入ると不  
安がよまりましたが、無事到着。  
煙水晶に出会うこともできました。  
次の研修(?)に早くも思いをはせな  
がら帰ってきました。



鳳来寺山  
自然科学  
博物館

# 特別展・観察会・モリアオガエル



鳳来寺山  
自然科学  
博物館

はつなだより 16.125  
2008.5



大断層・愛知の中央構造線

博物館45周年記念特別展

大断層・愛知の中央構造線

2008 5/3~8/31

10:00~17:00

1600円

大断層 701号

## 鳳来寺山のモリアオガエル (平成20年5月14日 雨)

昨年の初産卵日は5月20日でした。石段途中の医王院の上段にある池が、定点の観測場所です。24日には博物館のハナキ、翌25日には展示室脇の観察池に産卵しました。卵塊には300~600個の卵が産みつけられますが、無事成長できるものは1%に満たないのではないのでしょうか。池の水からはずれて産んでしまう、ドジな親もいますし…。

## 野外学習会「カラ沢谷の植物を楽しむ」 (平成20年5月6日 ほぼ50名参加)

鳳来寺山の北側にカラ沢谷があります。新城高校と安城農林高校の演習林があり、ふだんは勝手に入れない場所です。この日は自分たちしかいない秘境で、自然を満喫しました。夏にはここで動物部門の合宿です。



## 「大断層・愛知の中央構造線」展開催 (平成20年5月3日~8月31日)

博物館の45周年を記念した特別展です。日本を2分する延長1000kmにも及ぶ断層が、愛知の東三河を通過しています。そして、その断層の露頭は、すべて新城市内で見ることができます。愛知県内でも、この地域でしか見られません。

日本列島の形成。鳳来寺山をはじめとする、設楽の火山活動とも関連する中央構造線について紹介しています。構造線沿いの岩石、鉱物、化石も展示しています。岩石の違いがよくわかります。まだの方は、ぜひ見学してください。



花崗岩源  
庄砕岩  
(領家帯)

中央  
構造線  
結晶  
片岩  
(三波  
川帯)

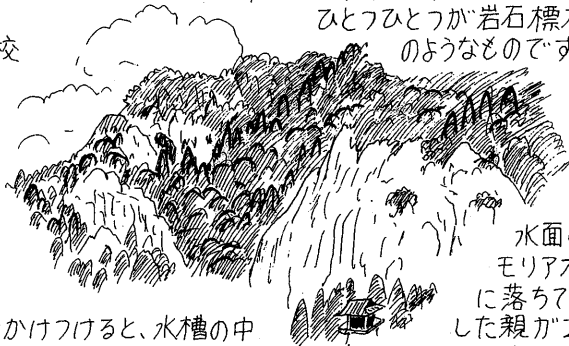


## 山ざる教室(平成20年5月11日)

ジュニアナチュラリスト養成楽級・森の学校「山ざる教室」の第10回授業を開きました。26名の山ざる候補生が集まって植物の見分け方、調べ方を五感をとおして学びました。草花の遊びも楽しみました。

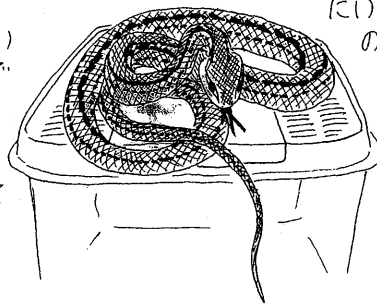
## 野外学習会「鳳来寺山の地質」 (平成20年5月18日 24名参加)

昨年5月10日、鳳来寺山が日本の地質百選に選ばれたこともあり、3年ぶりの鳳来寺山の地質探検になりました。館内の展示で学んだ後、現地へ外出しました。硯屋さんの裏手まで見られた堆積岩が、石段付近からいきなり火山岩に変わります。転石を利用して作った石段もひとつひとつが岩石標本のようなものです。



## ヘビ無断外出 (平成20年5月22日)

ロビーからの悲鳴でかけつけると、水槽の中にいるはずのシマヘビがフタの上でくつろいでいます。フタを押し上げて外に出たようです。ヘビ大苦手の館長以下、冷汗をかきながら、必死の思いでヘビハウスにもどしました。お客様がいらないときでよかったです。



## 大ハズレ、今年も失敗者 (平成20年5月24日、博物館)

水面の上に産まなければ、卵塊の中で育ったモリアオガエルのオタマジャクシ(幼生)は、地面に落ちてしまいます。今年も池からはずして産卵した親ガエルがいました。

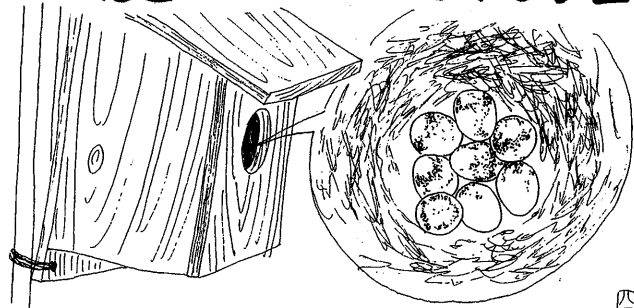


毎年必ず1~2件みつかります。枝ごと切りはすし、館のロビーで飼育することになりました。約40日間保護することになります。手足が生えてきたら池に帰します。

## 中央構造線現地見学ツアー (平成20年5月9日・15日 53名参加)

特別展との連携講座として、横山前館長にガイドしてもらいました。浜松市浦川から桜瀬までの中央構造線の地形や露頭を見てまわりました。とてつとなく長い時間と、ダイナミックな大地の活動に思いをはせました。何げなくながめていた景色の中に、生きて動きつづける地球の歴史がさざめいていることが実感できました。

# 仲夏のころと博物館



屋上の住人 (平成20年6月7日)

博物館の屋上にフッポウソウが住みついたらすごいなと思ひ、友の会の山本光昭さんが掛けた巣箱です。このところひんぱんに出入りくりかえす小鳥がいたので、そっとのぞいてみると産座には8個の卵が産んでありました。

シジュウカラが営巣していました。同じく屋上の展望室のみさしでは、スズメも営巣。館のある門谷では、スズメは希少です。

ナガエリチャワンタケ



マンネンタケ



竜のツメあと

## ジュニアナチュラリスト養成楽級 第2回「山さる教室」 (平成20年6月8日)

今回は梅雨期のきのこの勉強でした。午前は、うでこきまできのこの観察。一部を採集して、午後のきのこ学習に使うことにしました。名前を調べると、ナガエリチャワンタケ、マンネンタケ、ヒトクチタケといった変わった形のものと食用になるカワリハツ、アラケ、キクラゲなど57種のきのこが判明しました。次は秋がたのしみです。

## 「鳳来寺山で初夏の生きものとモリアオガエルを観察しよう」学習会 (平成20年6月7日、はれ 35人参加)

たくさん生きものに会いました。音為川のサワガニや石段のヤマアゲハステ、野鳥14種などなど。中腹の池にはモリアオガエルの卵塊が8個も産みつけられていました。

館にもどってからは巣箱のシジュウカラやムサビ(起こしてしまいました)、1ヒ水槽の1ヒ水たう、四谷からやってきたモリアオガエルの夫婦。こんな本物にあふれた観察会に参加できるなんて幸せです。

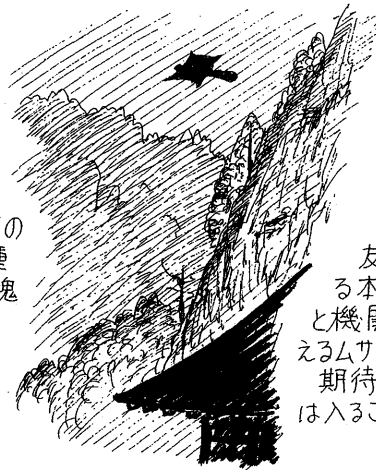


抱持中のモリアオガエル♀♂



## 小学校の利用

6月16日は鳳来西と加茂小学校の混成グループ63人が見学に来てくれました。又、6月20日には、小坂井東小学校5年生111人が見学と野外観察をセットにしたカイトツアーを利用してくれました。学術委員の水谷先生の応援ももらい、本堂までの石段ぞいに、岩石、動物、植物などを観察しながら登りました。樹上のモリアオガエルの卵や、地層の露頭に歓声があかりました。



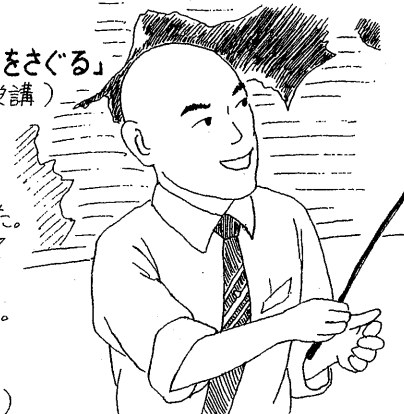
## はがつなだも 16.126 2008.6

### 「夜の鳳来寺山の生きものたち」 (平成20年6月7日、くもり 28人参加)

友の会の行事です。今年は鳳来寺山の中腹にある本堂まで、出掛けました。「キョッキョッキョキョ…」と機関銃のように鳴くヨトカ、「キルルル」と聞こえるムササビの声、そして飛翔も見る事ができました。期待していたコリハズツは音無しでしたが、ふだんは入ることのない鳳来寺山の夜は少しこわかったです。

### 講演会「生きている大地・中央構造線をさぐる」 (平成20年6月19日・28日、21人・44人受講)

博物館45周年記念特別展「大断層・愛知の中央構造線」展の連携講座です。前館長の横山先生が講師をつとめてくれました。中央構造線と鳳来寺山、地下資源をめぐって動いた歴史、中央構造線と地震、などについて興味深い話をたっぷり聞く事ができました。

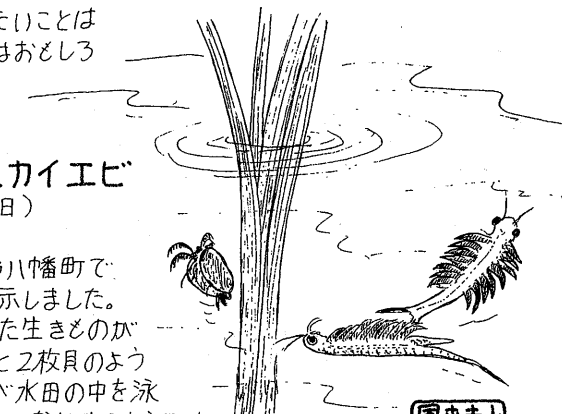


### 職場体験学習 (平成20年6月4日～6日)

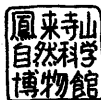
東郷中学2年の山本隼くんが博物館のお仕事を体験しました。朝のそうじから販売用岩石の石割り、カメ水槽のそうじや、展示物の解説を考えてもらいました。いろいろ体験してもらいたいことはいっぱいあります。博物館はおもしろいところですよ。

### ホウネンエビとカイエビ (平成20年5月30日)

ホウネンエビが豊川市八幡町で見つかり、ロビーで飼育展示しました。また、四谷の手枚田で、変わった生きものがいるとの連絡で、訪ねてみると2枚貝のような姿の7~8mmの生きものが水田の中を泳ぎまわっていました。カイエビのなかまのようです。どうやらエビの一種ではなく、鯉脚類(せりきゃくろい)に属します。水田には好ましい生きものたちで、いろいろかっています。



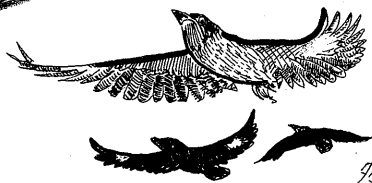
# 盛夏と博物館



はろつなだも 16. 127  
2008.8

学習会「貝塚と博物館の見学」  
(平成20年7月6日 21名参加)

田原市にオープンした吉胡貝塚資料館と豊橋市自然史博物館の見学をしました。多数の骨が貝塚から発掘された現場や古生物の骨格標本から、生物の進化を学ぶことができました。



ぶっほうそう満喫  
(平成20年7月6~7日)

コノハズクの生息調査とフッコウソウの観察に、友の会員の山本さんと出掛けました。大島ダム、宇連ダム、池場、ミツ瀬、新豊根ダムと、コノハズクの鳴き声を求めて、移動しながらの調査でした。市内では確認できませんでしたが、東京町ミツ瀬と豊根村のダムでは真近で聞いてくれました。

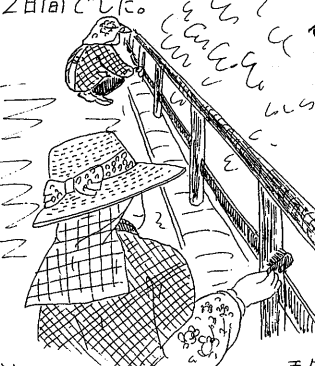
夜の宇連ダムでは、ヒメボタルとゲンジボタル、そして地上のワロモトボタルが光の競演。翌日の天竜村ではフッコウソウの群舞に遭遇。感動、感激の2日間でした。

夏の応援部隊  
(平成20年7月22日~8月21日)

学校の夏休み期間を利用して、給食調理員のみなさんが、博物館の応援に来てくれました。

13日間、延べ40人の大応援部隊でした。館内外の美化に大汗をかきながらがんばってくれました。

橋のペンキ塗りや収蔵庫のそうじなど、ふだん手がつけられない所がみちがえるようになりました。働きものの調理員さんに感謝。来年も来てほしいなあ。



子ども自然講座

- ①「食べられる植物、薬になる植物」(7月20日、10名)
- ②「金鳳石で硯を作ろう」(7月23日、18名)
- ③「サワガニや川むしとあそぼう」(8月3日、16名)

夏休みを利用して開催しました。

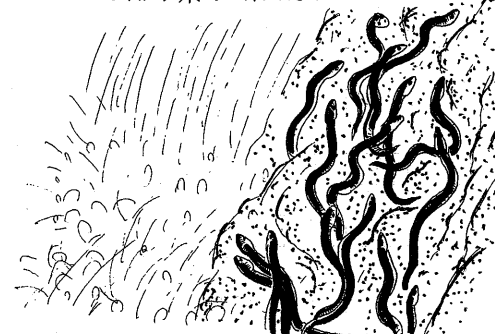
自分で作った硯で墨をすり、

毛筆で文字を書いてみると、何だか上達した気持ちになります。



ウナギのロッククライミング  
(平成20年7月27日、夜)

友の会員の澤田さんの案内で現地に着くと、信じられないような光景でした。滝のように水が流れ落ちる岩場を、体長20~30cmのエンペツほどの太さのウナギが、何十、何百と岩登りをしていました。マリアナ諸島から、はるばるやってきて、河口のシラス漁をくぐりぬけ、さらに激流でのロッククライミングです。試練の連続です。



学習会「森の生きものを観察しよう」(平成20年8月16・17日)

鳳来寺山の北東の谷、カラ沢にある安城農林高校演習林内でおこないました。水生生物調べ、灯火にやってくる昆虫採集、虫の落とし穴、ナイトウォッチングに、早朝のバードウォッチング、昆虫標本の作の方など、てんこもりの内容でした。初日にはサシバの若鳥を、じっくの観察できました(18名参)



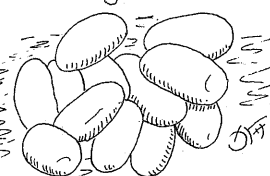
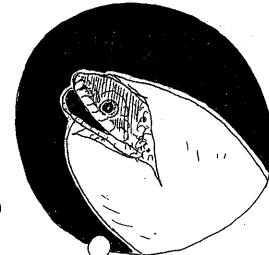
夏休みの自由研究相談会  
(平成20年7月27日、8月10日、24日)

自然に関する自由研究は人気なくなつたのか、相談件数が少なく感じました。もっと利用してもらう努力が必要ですし、自然観察のおもしろさを発信していかなければなりません。



ヤマカガシの赤ちゃん誕生!!? 😊  
(平成20年7月19日)

東海地方の梅雨が明けたこの日、飼育していたヤマカガシが産卵しました。まっ白い長楕円形の卵が12個。そして、ちょうど1ヶ月後の8月19日、殻を破って一匹目が頭を出しました。それから次々と卵孵化。Dビーが子へびだらけになってしまうので、山へ返しました。



# 秋の博物館

博物館45周年感謝祭 (平成20年11月22日~24日)

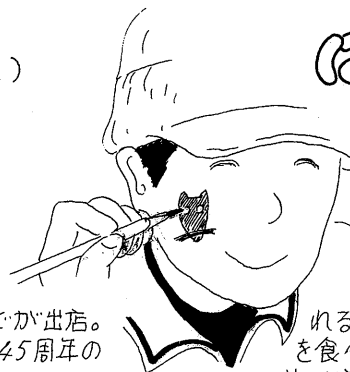
はがつかだもり 16.128  
2008.11

## 秋の仏法僧 (平成20年9月9日~9月17日)

千枚田で有名な四谷からコハス7の鳴き声の情報がありません。学術委員の小山嶺二先生からです。加藤(館長)も確認。天火の渡りを間近にしたこの時期の声ははじめてです。

本年は45周年記念の年であり早めに準備を開始しました。ミュージアムショップの品ぞろえを増やすため、鉱物、シル、カンパッチなどを作成。

ゲームでは人気の鉱物さがしに加え、ダーツとフェイスペインティングもやることにしました。友の会も、本多さんの竹トロボ、小原会長と原さんのツエ、山崎家のフリマ、丸山さんの山野草、深見さんのリースと木工などが出店。ボランティア協力隊も、3日間で32名が大学出動し、45周年の感謝祭を盛りあげてくれました。みなさんお疲れ様でした。謝謝。謝謝。



ジュニアナチュラルリスト養成講座「森の学校・山サウル教室」第3回 (平成20年11月8日、24名参加)

今回のテーマは「秋を味わおう」でした。うでこき山周辺を観察して食べられる木の実や種を採集。ムカゴウギンナンを食べてみました。さらに講師の三津井先生が準備した竹製のアンタラ(南米の民族楽器)を演奏。味だけではなく、音も楽しむことができました。

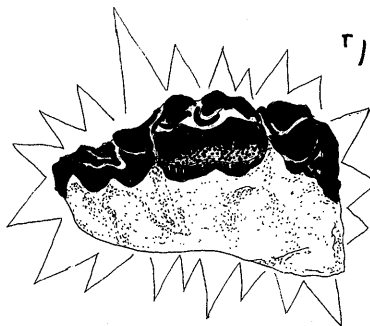
## 鉱物採集で珍菌採集 (平成20年10月16日)

横山前館長と紅柱石の採集に新野峠を越えて出かけました。サファイア入りの立派なアンタラサイトの標本が採集できて感激。帰路、調査に立ち寄った大沼官林では、見たことのないきのこを採集。ニカワショウロタケでした。



内部は小区画にわかれています。寒天質、シラタマタケと異なります。

茶褐色で粘液状の胞子がつまっていた。さっそくきのこの展に展示しましたが、強烈な悪息が会場に立ちこめ、退場処分になりました。現在、凍結標本の準備中です。

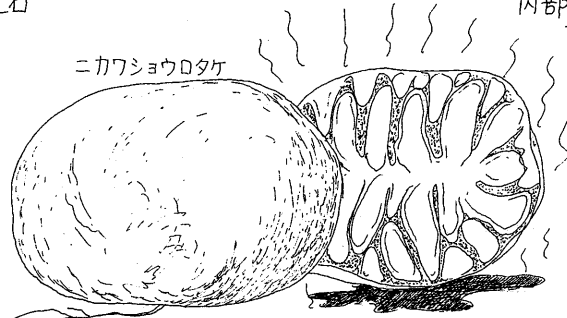
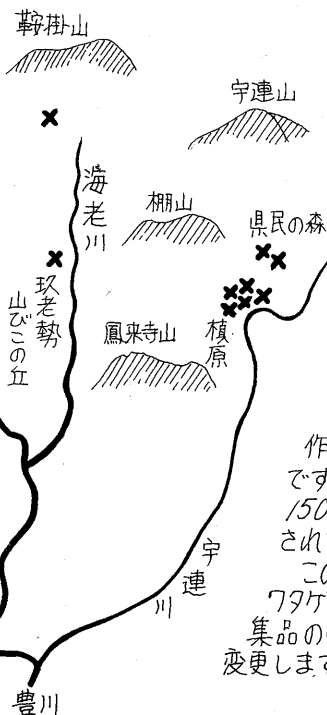


## 鳳来でクマ出没 (平成20年10月~11月)

県民の森近辺と玖老勢、海老方面で、ツキノワクマの目撃情報が相次ぎました。ハイカー、住民、市職員、猟師の人など、9件におよびます。過去にもクマ情報はありましたが、今回は信憑性が高いです。

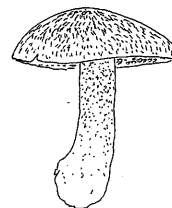
## 「バフの化石産地探索」友の会企画行事 (平成20年9月14日、くもり、51名参加)

昭和28年に玖老勢の採石場(玖老勢分野の谷)からバフの上アゴ化石が出ました(館で展示中)。そこで、第2の発見を期待して友の会員51名が集いました。ホ乳類の化石は出ませんでした。植物や貝の化石が採取できました。また挑戦したいですね。



## 野外学習会「きのこを調べよう」 (平成20年10月19日、はれ、75名参加)

作手の鬼久保広場で行なう3年目の観察会です。晴天が続く乾燥していましたが、150の目でさがすと見つかるものです。同定されたもので85種になりました。この観察会で初めて見るアミハナイグチやワタケヌメリグチ、シタケ、イモタケが採集品の中に含まれていました。来年は場所を変更します。また楽しみが増えました。



アミハナイグチ



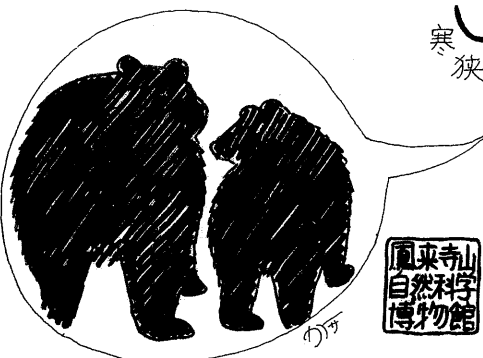
イモタケ

## きのこのこの季節

天火になるとなぜかそわそわします。博物館では、恒例の「きのこ展」を9月27日~11月3日まで開催。期間中、1,067人の見学がありました。

また、市内の学校やグループのきのこ観察会などもあり、講師をつとめました。

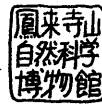
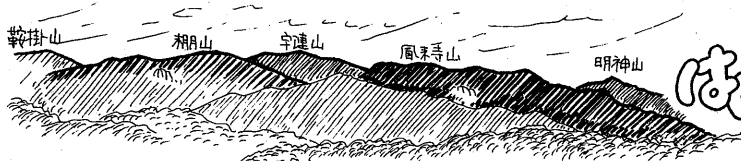
- 9月28日「秋の里山を楽しもう」豊橋市民大学
- 10月5日「きのこ観察会」碧南海浜水族館
- 10月8日「きのこの学習・観察会」菅守小学校
- 10月9日「きのこ狩りを楽しむ会」鳳来寺小学校
- 10月11日「東浦町子どもきのこ採集教室」東浦町
- 10月13日「キノコ観察と採集」グリーンホリデー豊根
- 10月25日「キノコ」うさど文化講座、于郷中学校
- 10月30日「秋のきのこ学習会」黄柳野小学校



鳳来寺山 自然科学 博物館



# 晩秋から年末の博物館



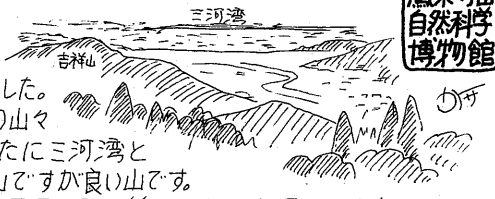
## 大そうじ大会 (平成20年12月20日~23日)

年末恒例の大そうじ大会をおこないました。今年は総勢12名の協力隊員(ボランティア)が出動。イノシシに荒された中庭の復旧土木作業、落ち葉かき、展示ケースのガラスふきなど、寒い中でと汗をかきながら、そうじを進めてくれました。昼は野生キノコとシシ肉のナベで一息。塩瀬さんは、後日も出動し、カッパと道具持参で、黙々とバルコニーの床や壁をみかいてくれました。25年分のおこりをきれいに洗い流してくれました。みなさんありがとうございました。



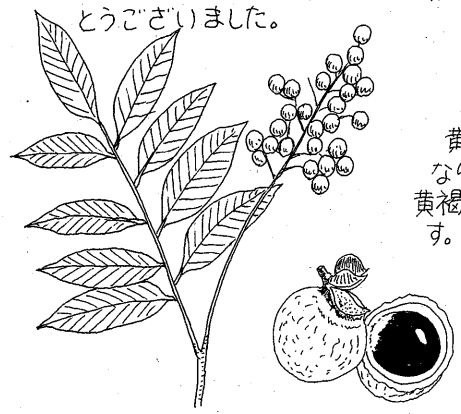
## 風切山の秋の紅葉を楽しむ (平成20年11月30日)

晩秋のすきとおった青空の下、42名の参加者で楽しみました。北方には鳳来寺山をはじめとする奥三河の設楽火山由来の山々が一望でき、山頂から南方に目をやると、吉祥山のかなたに三河湾と渥美半島が遠望できます。356.4mの山ですが良い山です。登山道のムラサキシキブのあざやかな紫。周囲に見えぬ錦の山なみ。山頂での昼食は、その名のごとく、風を切る大風の中でいただきました。



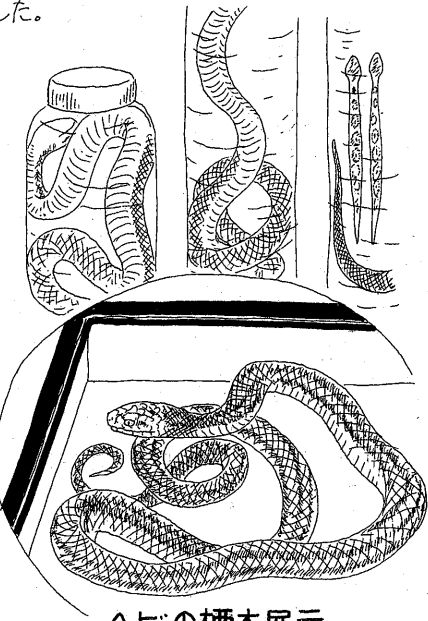
## ムクロジ(無患子)の実 (平成20年12月8日)

黄金色に色づいたムクロジの葉が落ちると、鈴なりになった果実が目立ちます。直径2cmほどで、黄褐色に熟した実の中に、黒い種子が1個入っています。果皮にはサポニンが含まれていて、泡立てて石ケンの代用になります。種子は追羽子の球に使われます。博物館の前庭に植えられています。いつでもひろいに来てください。



## 第4回山ザル教室 「森の構造をみる」 (平成20年2月7日23名)

森の築校最後の授業でした。うでこき山と周辺の山に分け入り、森のつくりを外と内から調べました。スギ林と雑木林では、植物の種類も数も全く違います。雑木林では太いツルを使ってターザンになったり、落ち葉がくれ(ミムシ)をしたり、すっかり山ザルの群れになっていました。終わりに中西正先生から、山ザル教室の修了証が授与されました。



## ヘビの標本展示

生態展示室の不人気コーナーに両生・は虫類コーナーがあります。ヘビ・カエルの液浸標本が並べられている場所です。ホルマリンで処理しており、脱色して白くなっている上に、中身もあまり人に好かれる生き物たちではありません。そこで、今回ヘビたちの凍結乾燥標本づくりに挑戦中です。マムシ、シロマダラ、シマヘビ、タカチホヘビ、ヒバカリ、ジムワリがまあまあの出来はえです。現在、体長180cmのオオタイショウ、ヤマカガシを製作中。春の展示デビューをお楽しみに!

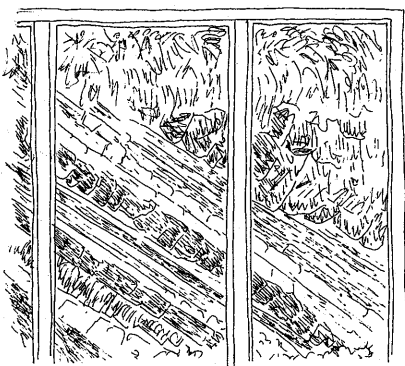
## 45周年記念特別展「博物館を支えたナチュラリストたち」 (平成20年11月23日~平成21年3月23日)



鳳来寺山自然科学博物館は多くの人に支えられ、今日があります。特に館の設立と、その後の活動の中で、学術面を支えてくれた学術委員の先生方の働きを忘れてはなりません。この展示では、故人となられた7人の先生と、館の歩みを紹介しています。一度のぞいてみてください。

## 地層の学習と博物館

小学校6年生になると、理科の授業で「土地のつくり」を学びます。大地をつくっている地層や、そのほか、堆積岩と火成岩についてです。博物館とその周辺は、もってこいの学習の場です。展示室の岩石、化石標本の他に、ドアから一歩外に出ると、崖の崖にみごとな地層の露頭が見られます。また、周囲の門谷地内でも地層の続きを観察することができます。この秋、舟着小(13名)、鳳来東小(8名)、佐久間小(14名)が利用してくれました。堆積岩、火成岩、そして変成岩まで、歩いて観察できる絶好の場です。



# 早春の博物館と鳥の話題

はぶつたあゆ 176.130  
2009.3

## コハズク巣箱調査 (平成21年3月5日)

今年も鳳来寺山一帯に掛け  
てあるコハズク用巣箱の利用  
状況調査をおこないました。  
行者越～鷹打場方面と安城  
農林演習林内の2方面に分かれて  
の調査としました。

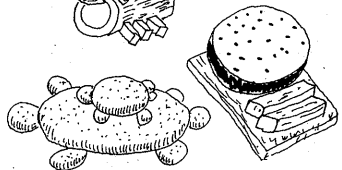
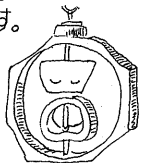
残念ながらコハズクの痕跡は  
見出せませんでした。アカネズミ、  
ホンドリス、シジュウカラ、ヤマカウの  
利用の他、モモンカが使用中の  
巣箱がありました。

調査で目ざめさせてしまいましたが、  
かわいい姿を見せてくれ、心がなごみました。

## 自然をアートしよう&スケッチを楽しもう (平成21年1月25日、友の会行事、16名参加)

参加者のレベルの高さにおどろきました。  
自然素材(小枝、竹、石ころなど)をみごとに使って  
アートしてくれました。

冬に開催予定の「みんなの博物館」展に出展  
していただきます。



のり



## ワマタカが棲む山々 (平成21年1月15・16日)

澄みきった青空をながめながら  
館のバルコニーで弁当をひろげていると、鳳来寺  
山の東側の山並の上空に、大きなタカが姿をあら  
わしました。ワマタカです。翌日(16日)には、2羽で  
飛翔。今頃は確か繁殖期と思います。

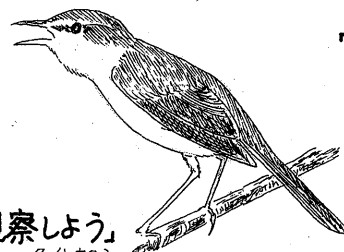
1ヶ月後の2月15日、友の会有志(好鳥倶楽部?)  
で新城～東栄を調査。  
3ヶ所で確認できました。

## 学習会 「豊川の水鳥を観察しよう」 (平成21年1月11日、36名参加)

桜濑公園での野鳥観察は初  
めてです。これまで観ることができ  
なかつた水鳥がいる所なので、  
とても楽しみです。

この日は、ヒドリガモ、オナカガモ、  
マガモ、キンクロハジロなどのカモの  
仲間の他、上空にはトビ、ノスリ、  
チョウゲンボウと姿をみせてくれました。

アオサギやカワセミ、イソシギなど  
水辺の野鳥が数多く現れ、  
38種が確認できました。

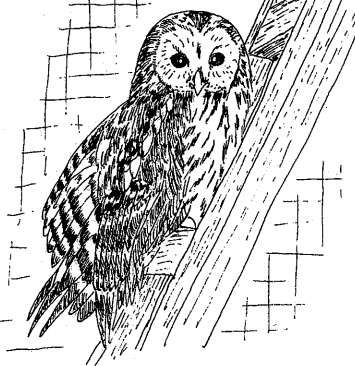


## 新たな入居者(平成20年12月29日)

年と改まろうとしたこの日、新城の緑ヶ丘  
でフクロウが保護されました。

ケガをしたのか、道路でうずくまっている  
ところを、友の会員の山本翔くんが発見し、  
お父さんと、館へとどけてくれました。

現在も飼養を続けていますが、骨折  
のためか、うまく飛べません。緑ヶ丘の森  
へ帰りたいたいでしょうね。



## ウグイス初鳴(平成21年2月23日)

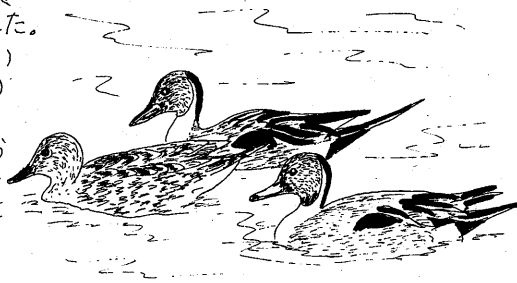
今年も門谷の丸山(間)さんが報告  
してくれました。昨年は3月3日でした。  
春告鳥とも呼ばれますから、去年  
より10日ほど早く春を知らせ  
てくれたことになりました。



## 冬の自然探検(平成21年2月8日、はれ、60名参加)

まるで石切場のように切り立った岩に囲まれた  
場所でした。昨年、雪のために中止した探検コース  
です。利修仙人が修業し、護摩をたいた所とさ  
れ、仙人の石像がまつられています。

ロープを使ってやっとたどりつける難所です。ふだん  
なかなか行けない秘境です。帰館して食べたジ  
肉入りきのこ汁は、体をホカホカにしてくれました。



## 45周年謝恩見学会 12月27日～1月5日

開館45周年の佳節に、これまで  
の感謝をこめて、年末年始に館長  
が特別メニューの見学案内をしました。

空調がなかったため、とても寒い  
館内でしたが、皆さんにたい  
へん喜んでいただきました。

感謝の気持ちを忘れず、お  
客さまによるこぼれる対応を  
ふだんから心がけていきたいと  
思います。

50周年に向けて前進!出発!